

支援体制の枠組みはできた！

教職員がテイク配置をしてくれる。ろう学生は何もなくて良いの？

テイカーはテイクだけしてれば良いの？

テイカーに、いつなれるの？先が見えなくて心が折れるよ

しかし問題が！？

講習会の参加者が少ない！募集どうしよう？

何をどうしたらいいんじゃあ〜！ヽ(@_@)ノ”

改善を目指した一年の取り組み

☆個々の役割の明確化・配慮の増加

- 授業における教員の**配慮が増え**、より情報が得やすくなった
- ろう学生やテイカーの**支援環境の向上意識が強まり**、新人テイカーへの指導・養成講習会の講師になる学生が増えた

結果 成果

新たな 問題

1年半～2年前の状態

- 制度が整ったが故に**形骸化**
- 学生と教職員の**協働関係の希薄化**
- 学生の**主体的参加の減少**

学生と 教職員の 協働

問題の 分析

新たに始めた取り組み

- ろう学生もテイカーの養成に携わる
- テイク講習会プログラムの見直し
- テイク関係者による情報交換会を実施
- 支援窓口担当以外の教職員にもコミットしてもらう
⇒FD研究会を実施
- 情報保障や、授業で困ったこと・助かったことをまとめた**教職員向けパンフレット**を作成し、全教職員に配布
- ろう学生の主体的参加と成長を促すための**高校生向けガイドブック**を製作

※実物を用意しております！

取り組み 働きかけ

原点回帰

- テイカーは自分に割り当てられたテイク以外には**無関心**に
- ろう学生が自ら働きかける**機会の減少・非協力的**
- 教員はテイカーと支援窓口におまかせ状態

「学生と教職員の協働」の原点に戻る

原点に立ち戻ること、活動の本来の目的を思い出す
どんな活動を、誰が行うべきか今一度整理・確認する

↓ 結論

今の体制・協働の仕方を改めて考え直す必要がある
全教職員にも情報保障体制について知ってもらう

